向陽新聞
号外
高知市春野町97
土佐中高校新聞部

大嶋校長を悼む

眠るように逝く
二十日に学校葬

本校の大黒柱ともいうべき大嶋校長は、昨秋以来長い自宅療養を続けていたが、十六日午前三時十二分永眠された。本校を戦災の廃墟から立ちあがらせた恩人として、各方面から惜しまれている。

大嶋校長は三年前過労のために軽い肺気腫におかされ、激務のため十分治療することができず、昨年九月藍綬褒章を受けた時の疲労もかさなり衰弱がひどくなり十一月から自宅で療養しておられたが、最近消化器官の衰弱のため病状がしだいに悪化、去る四月十三日潮江市民病院に入院したが十六日遂に逝去された。

先生は十五日夜から呼吸困難になり酸素吸入を続けていたが、十六日になってしだいに呼吸が浅く遠くなり、午前三時十二分眠るように永眠された。

曽我部・竹内・川崎の三理事は十六日午後本校で緊急理事会を開き校葬として行うことを決めた。なお後任が決まるまで西野教頭が校長事務を取ることになった。

学校葬は二十日午後一時本校講堂で

再建に心血注ぐ
頭の下がる御労苦

西野教頭

世の中にさらぬ別れのなくもがな　千代もと祈る人の手のため

業平のこの歌をけさほど痛切に実感を以て味わったことはありません。校長先生はお気持がしっかりしておられて、もっともひどくお悪いとは思われなかった、いやわれわれに悪いと思わせなかったのでまだまだもう一度お元気になられて学校にも出て来られる日があるだろうと期待していましたのに本当に今日こんな悲しい文を綴らねばならぬとは夢にも思わぬことでした。

先生は明治二十二年五月十八日のお生れですからもう一ヵ月で満六十九才になられるところでした。今の人は七十才を越しても元気で第一線で活躍しているのでまだまだ先生には本校のために御活躍していただけるものと思っていました。

土佐中学校へは昭和十一年十月に教頭として迎えられました。その後十年前校長青木勘先生を補佐して、その深い学識を養い経験を傾けて本校生徒の教育に専念せられたのであります。昭和二十年四月青木校長先生の後を襲って本校の校長に就任せられましたが当時あたかも太平洋戦争は最悪の事態に立至っていて学校における授業などほとんどできないくらいでした先生が校長に就任せられてわずか三ヵ月にして七月四日の高知市大空襲で本校々舎は完全に灰燼に帰してしまいました。それからの校長先生の歩まれた道は挙げて本校復興の歴史と共にあったわけです。廃墟に立って校長先生は万難を排して本校の復興を誓われたのでした。毎日々々が血のにじむ様な努力の連続でした。資金の調達、物資の獲得に文字通り東奔西走せられました。

校舎が出来上った時には先生の心身はすでに使い尽されていたわけです。御無理に御無理を重ねたのが次第に痩せたお体をむしばんでいたのです。本当に先生は学校のために命を捧げられました。大嶋校長先生あっての現在の土佐高校土佐中学校なのです。

先生の御逝去は本校にとってはかけがえのない大黒柱を失った事になるのです。併し今われわれは力を失ってはなりません。先生の残された輝り高き土佐高等学校、土佐中学校を益々隆昌におもむかしめることこそわれわれの双肩にかゝった重大な責任であると同時にそれが亡き校長先生の御霊をおなぐさめしその御恩にお報いする唯一の道だと信ずる次第であります

せめて40周年まで

同窓会会長　曽我部清澄氏

長い間お会いしませんでしたが、突然の御逝去で、まったく意外というほかありません。ちかく創立四十周年の記念式典もあることだし、同窓会としては、校長先生が花道にたつすがたを夢みておりましたのに、大嶋校長の今までの御労苦に対して、何もお報いすることができず、ほんとうに残念ですしかし、灰じんに帰した本校再建の大恩人として、その名は永久に光り輝くことと思います。

一瞬大ショック
振興会副会長　南政一郎氏

先生の御逝去を聞いた時、一瞬六地が暗くなり心のより所を失ったような気持がしました。先生は他県人でありながら土佐高に生き土佐高に滅したといっても決して言い過ぎではないと思います。又、

教育に生き教育に滅す

県高校校長会会長　楠瀬洋吉氏

先生の一生をかえりみてみますと今さらながら教育のために生き、教育のために死なれた、それも特に土佐高のために一生をなげだされたという感にたえません。私としてはせめて老後ゆっくりと養生させてあげたかったと思う一方では教育者として一生をつらぬきとおして多くの人々からおしまれておなくなりになったのだからそれが最もよいことではないかとも思います。

氷をしゃぶって授業
＝校長先生の思い出＝

山岸先生

校長先生の思い出話は沢山ありますが、先生がいかに教育に熱意をもたれたかを物語る一例を話しましょう先生は赴任された新設中学で教頭として成績の向上に全力をつくされ特に補習授業には力を入れられどんなに暑かろうが寒かろうが冬休みも夏休みも率先して指導されました。特に夏の暑い時には氷のカチワリを生徒にシャブらせながら授業されたことはどうしても忘れられません。こんな思い出話をするときは先生はいつもにこにこと楽しそうに聞いておられました。こうした誠心誠意熱と意気の教育は若い者の心を動かさずにはおきません。みなが親父になっても事あるときは先生の門をたたき御指導を仰いで終父のようにおしたいしておりました。今私は大きな柱を失ったようにぼんやりとしていますが、これがすべての人の気持だと思います。

遺志を介して発展を

同窓会東京支部長　島野広氏

戦後灰燼に帰した母校を、こんにちの学園にまで作りあげ、土佐中学の精神を現代的に復興した先生の功績はまことにすばらしいものであった。我々東京同窓会としては、先生逝去の報に接し、先生の功績に今さらながら深く感謝するものである。今後先生の遺志を介して一致協力し、さらに母校の発展のために尽さなければならないと思う。

眠るような死顔

付添看護婦の話

私は午前〇時頃から看護をしましたが、一時頃学校のことについて譫々うわ言を言っていたようでした。なくなられたとき、そのやせた姿を見て一瞬目をそらしました。これほどまで自分の体を犠牲にして学校のためにつくされたのだと思わず目頭が熱くなりました。しかし本当に安らかな死顔でまるで眠っていられるようでした。

大嶋光次先生略歴

明治二二年	香川県に生れる
四〇年	東京物理学校を卒業
四四年	栃木県立真岡中学校教諭心得に就任
大正元年	愛知県立工業学校教諭心得に転任
六年	岐阜県立大垣中学校教諭に転任
一二年	高知県立城北中学校教諭に転任
昭和五年	同　城北中学校校長心得に昇格
六年	同　海南中学校教諭に転任
七年	同　中村中学校校長に栄転
一一年	同　同校校長を辞職
同　年	高知県私立土佐中学校教頭に就任
二〇年	同校校長に昇格
二二年	同　私立土佐高等中学校校長に就任
二四年	高知県高等学校体育連盟会長に就任
二五年	同　野球連盟会長に就任
三一年	高知県体育協会賞受賞
三二年	藍綬褒章受賞